



ドゥッテ
ディスタンス

【概要】

ドッチビーを使ったディスク（遠投）です。

投げ方に制限はありませんが、フライングディスクの基本を踏まえることが重要です。

この競技は最も簡単かつ根源的なディスクの魅力に触れることができるコンテンツであり、誰でも記録に挑戦することができます。その記録をより多くのカテゴリで認定することで、全世代に向けたモチベーションを提供します。

【序文】

ドッチビーディスク特有の柔らかさ、軽さがもたらすのは安全性だけではありません。自重が小さいことから、どんなにパワーのある人が投げても大きな飛距離が出ることがありません。これは一見、つまらないことのように思われますが、
私たちはそのようには考えません。

広大なスペースを必要とせず、適度な広さの場所があれば誰もが手軽に参加できるという利点があり、より多くの方に参加していただけるものと考えます。

また、競技性においては相手と対戦するのではなく、
個人が記録を元に自己研鑽することができる利点があります。

この競技はフライングディスクの基本を習得することからスタートし、日本最高記録の樹立も決して夢ではなく身近であり個々人の大きなモチベーションになる。
と私たちは考えています。

記録会の開催は一定の競技運営レギュレーション～指針を示して、守って実施されたものを公式の記録として認めて、実施主体はより多くの地域団体が主催できるものとする事で
機会の増加を図りたいと考え、レギュレーション設定を改めて検討しました。

具体的な今回の改定は、
ルール条文ではスローのリリース範囲の規定を実際に則した内容に変更しました。
その他の大きな変更はなく、レーザー測距器の機種を緩和することや
公認の測定用品のリニューアルをおこなったことによる制度の変更を中心としました。

以上のご理解またご協力を何卒、よろしくお願い申し上げます。

一般社団法人日本ドッチビー協会

1 用具

1-1 使用ディスク

日本ドッチビー協会公式ディスクを使用するものとします。

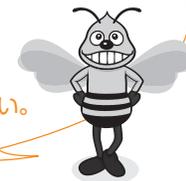
1-2 測距器

センチ単位で計測可能なレーザー測距器を必ず使用するものとします。

1-3 測定キット

日本ドッチビー協会指定の受光板およびマーカーを必ず使用するものとします。

ドッチディスクの記録認定における要件はセンチ単位まで計測すること、
協会指定の測定キットを使用すること、があります。
したがって少なくともセンチ単位まで計測できるレーザー測距器を使用することが記録認定の要件として重要です。
以前は測距器のメーカーや機種が指定ありましたが、
今回のルール改定で緩和しました。
日本記録の認定においては事前に使用機器についてご相談ください。



2 会場

2-1 風の影響を受けない(体育館・ホール・球場など)インドアとします。

3 スローの規定

3-1 投げ方の制限は設けません。

3-2 60秒以内に一人3投のスローをおこないます。

3-3 スローの時間配分は自由ですが、60秒を超えてからのスローは無効となります。

3-4 ディスクを投げ出す以前にスローラインを踏むまたは踏み越した場合、
ラインオーバーのファールとなり、そのスローは無効となります。
ただし、投げ出した後にラインを踏むまたは踏み越した場合は有効とみなします。

4 設 営

4-1 スローイングエリアの設営

以下の規定を遵守することにより公式記録として認定されることになります。
守られていない場合、公式記録としては認められません。

4-2 横幅の規定

スローイングエリアの横幅の最大は25mとします。最低は設けません。

概ね10m以上を推奨します。



4-3 縦長の規定

スローイングエリアの縦長はできるだけ長いことが望ましいが制限は設けません。ただし縦長が短いがために、スローが会場の壁面に直接当たった場合、壁面までの距離を記録とします。

ドッチビーの飛行性能上インドアにおいては、45mの縦長があれば全ての部門において、支障は起きないと思われます。



4-4 スローライン

スローラインの横幅は3mとします。

スローイングは両足が3mの範囲内にあればどこからでもおこなうことができます。

5 計 測

5-1 計測の方法

以下の規定を遵守することにより公式記録として認定されることになります。
守られていない場合、公式記録としては認められません。

5-2 計測の単位

スローラインからスローイングエリア内に向けてディスクを投げ、ディスクが初めに接地した地点をセンチ単位まで計測します。(例=23.45m)

5-3 マーキング

ディスクが初めに接地した状態と全く同様にマーカー【1-3】を使用してマーキングします。

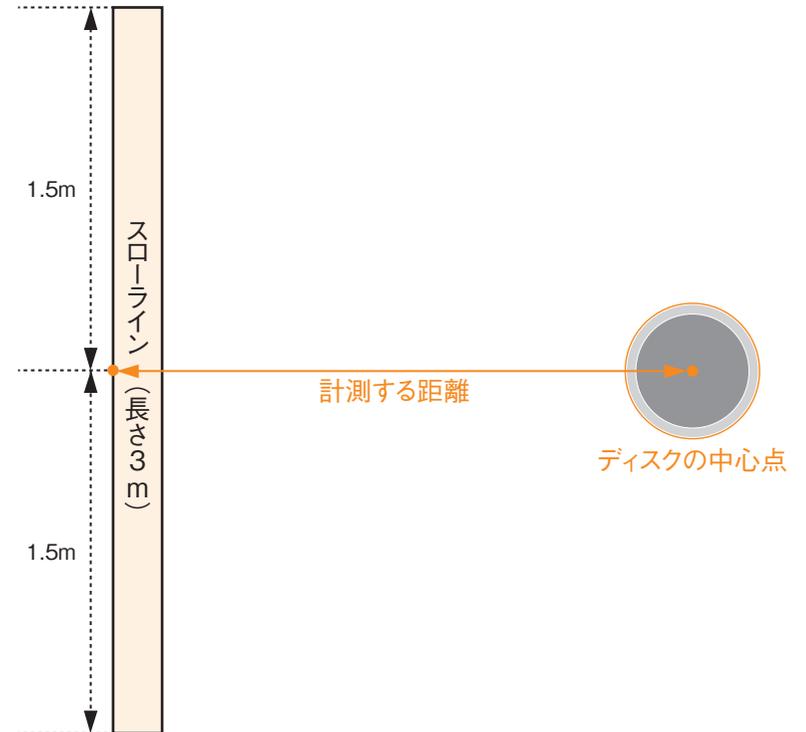
5-4 計測の起・終点

①左右の起点

スローがどこからおこなわれたかにかかわらず、スローラインの左右の中心点を起点として計測します。

②距離の起点

スローラインの手前ライン際を起点として計測します。

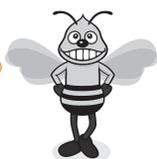
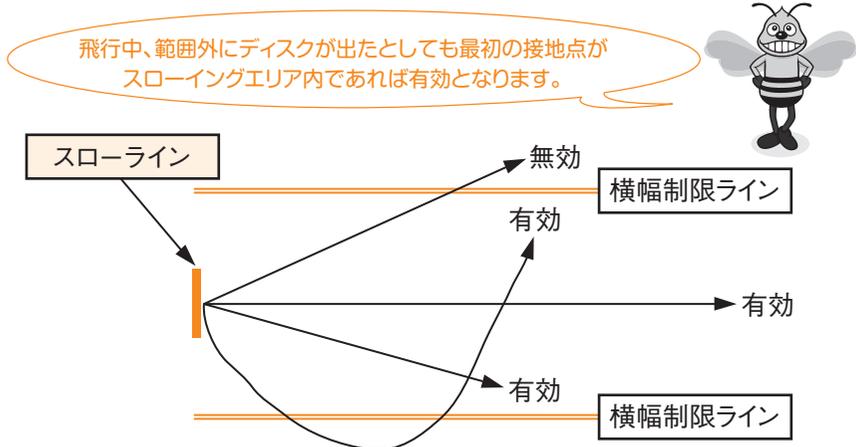


③終点

マーカー【1-3】の中心点に受光版を設置して測距器【1-2】を使用して計測します。

5-5 無効スロー

スローイングエリアの横幅の規定【4-2】範囲外に最初に接地したスローは無効となります。無効スローはその飛距離にかかわらず、計測しません。



6 カテゴリー

各部門、各性別の合計53カテゴリーの日本最高記録を認定します。

部門	対象	性別	カテゴリー
① Boys&Girls4歳	(4歳児)	性別不問	計 1
② Boys&Girls5歳	(5歳児)	性別不問	計 1
③ Boys&Girls6歳	(6歳児)	性別不問	計 1
④ 小学生	(各学年)	男/女	計12
⑤ 中学生	(各学年)	男/女	計 6
⑥ 高校生	(各学年)	男/女	計 6
⑦ アダルト	(18~30才)	男/女	計 2
⑧ シニア	(31~35才)	男/女	計 2
⑨ シニアアダルト	(36~40才)	男/女	計 2
⑩ マスター	(41~45才)	男/女	計 2
⑪ シニアマスター	(46~50才)	男/女	計 2
⑫ グランドマスター	(51~55才)	男/女	計 2
⑬ シニアグランドマスター	(56~60才)	男/女	計 2
⑭ レジェンドマスター	(61~65才)	男/女	計 2
⑮ グロリーマスター	(66~70才)	男/女	計 2
⑯ グレートマスター	(71~75才)	男/女	計 2
⑰ スーパーマスター	(76~80才)	男/女	計 2
⑱ ウルトラマスター	(81~85才)	男/女	計 2
アルティメットマスター	(86才以上)	男/女	計 2

チャレンジド(障がい者)カテゴリーは①~⑥までは上記と同様に。18才~86才までは1才毎、それぞれ男女別の部門があります。詳細はDBJA公式ホームページでご確認ください!

